



東陽病院放射線科長

片山明彦

健康ウォッチング

横芝町の皆さん、こんにちは。先ごろ、茨城県東海村の核燃料加工施設JCOで起きた臨界事故による「放射線ひばく」には、皆さんも関心がおありだと思えます。今回はそれに関連して「放射線ひばく」について少しお話ししようと思います。「放射線ひばく」には大きく分けて自然放射線によるひばくと人工放射線によるひばくがあります。人工放射線には医療用X線検査やがん治療に使われている放射線、核実験などで生じた放射性物質からの放射線、原子力発電に伴う放射線、工業や農業の分野で使われている放射線などがあります。私たちが受けるひばく線量（どのくらいひばくしたかを示す単位、通常シーベルトという単位を使います）は自然放射線によるものが大部分で、その次に医療による放射線となっています。日本などの先進国では医療放射線によるひばく線量は年間1〜2ミリシーベルト（国民の平均）といわれています。ちなみに1ミリシーベ

ルトは千分の1シーベルトです。先ごろ事故でひばくした方は10〜15シーベルトですからその線量の多さがわかりだと思えます。

私たちは宇宙線や建築物の中、大地、空気、食べ物の中などから、避けることのできない放射線（自然放射線）を受けています。自然放射線による「放射線ひばく」は世界平均で2.3ミリシーベルトと言われています。自然放射線による「放射線ひばく」は世界平均で2.3ミリシーベルトと言われているのですが、地域差があり、千葉県ではおよそ1ミリシーベルト程度といわれています。アントニオ猪木の育ったブラジルや釈迦の育ったインドのある地域では大地からの放射線の影響が大きく日本の数十倍を越えるところもあります。しかし、その地方に障害が多

『放射線ひばく』について

いとか、病気が多いと言う報告はありません。医療による「放射線ひばく」では、たとえば、胃の集団検診1検査では4ミリシーベルト、胸部集団X線撮影1回では約0.3ミリシーベルト程度のひばく線量になります。東陽病院では胸部X線撮影検査1回で約0.12ミリ

シーベルト程度です。検査によってひばく線量は異なりますが、通常この程度の「放射線ひばく」ではなんらかの症状が出る可能性はなく、臓器へのひばくの影響のほとんどが約1日で回復すると言われております。医療におけるX線検査は病気の早期発見、正確な診断のためにはかかすことが出来ません。我々、放射線技師も、少ない「放射線ひばく」でよりよい診断情報を提供できるように務めております。限られた紙面では十分ご理解できない点もありません。お問い合わせ下さい。

母親学級の開催
妊娠・分娩が安心して出来るよう「母親学級」を開催します。

日時 1月28日（金）
午後2時から4時
場所 東陽病院2階
産婦人科外来
対象 制限はありません

電話 84-1335
FAX 84-2882

年金だより



20歳になったら『国民年金』

〜年金は世代世代の支えあい〜

成人式を迎えられたみなさん、おめでとうございます。20歳になると、成人として多くの権利が認められますが、また同時に新たな責任も加わります。国民年金に加入することもその一つです。

国民年金制度は、老後の備えを助けると共に、病気やケガ、死亡などにより生活の安定が損なわれたときに、国民みんなでお助け合うという社会的な支え合いで成り立っている制度です。我が国では、20歳から60歳になるまでの全ての国民は、必ず

公的年金制度の一つに加入することになっており、厚生年金、共済組合に加入していない学生や自営業、農業などの方々も国民年金に加入しなければなりません。

“20歳になったあなた”
国民年金に加入して大人の仲間入りをしましょう。

